

役立つ診療情報管理士をめざして

長澤 哲夫
北里大学東病院 病歴室長
専門課程小委員会委員

今日の医療においては診療を医師が一人でやれる時代でなく、看護師をはじめとするコ・メディカルスタッフ、事務職員を含めたチーム医療が行われているのが普通であると言えます。チーム医療を遂行していく上で大事なのが診療記録の内容で、つまり医療情報がいかに共有できるかにあります。したがって、診療記録、診療情報は医療の根幹をさすことの情報ですが、わが国の医療保険制度下では長い間軽視されてきました。しかし、21世紀に入り医療の質や医療の安全が社会の課題と認識され、国の推し進める医療費の包括評価とあいまって、診療記録の内容とその管理が医療の形態を制するものとなりつつあります。そして、そのあり方が医療をはじめとする社会保障領域の経済性に直接影響するため、医療関係者のみならず患者や社会の関心を高め、高度な医療と共に、安心できる安全な医療のために診療記録という医療情報の管理とその情報の活用が求められているのです。

そこで、診療情報管理士を目指していく皆さん方には、これまでの情報支援ということは勿論のこと、加えて社会の流れを正しく受け止め、時代の要請に応えるべく洞察力を持って、病院管理者の打ち出す将来構想を理解し、その計画に積極的に参画して行く実行力が必要となってきます。それには診療情報の管理や提供だけでなく、行われた医療を正しく評価できる力、つまり診療記録を読み取る読解力を養っていただきたいのです。そして、記載の不備や記載漏れを指摘できる緻密さ、書類管理の正確さ、診療録を基とする医療情報の管理と情報分析に対する能力とを備え、医師をはじめとする医療スタッフと協力関係を保つ協調性を持つ必要があるのです。そして、日々向上する医学知識や診療技術に興味をもち、新しく名付けられる病名、手術方法、新しい医学用語や医療情報の知識を吸収できる学習体制を続けなければなりません。ライセンスを持つということは、その発展と時代の変化に対応した継続的学習が自然に必要とされ、生涯教育としての必要性が大なのです。

診療情報管理士を目指す皆さんも、今後の新たな診療情報管理のために継続した積極的な学習が求められることになるわけで、不明朗な点はそのままとせずその時点で問題を解決し、確実に力を付けて次の時代を睨んだ役立つ診療情報管理士を目指していただきたいと願うものです。